次亜塩素酸水の空間噴霧除菌〝解禁〟厚労省が認める事務連絡通達を出す

越智文雄日本除菌連合代表 あかりみらい社長「厳冬期の感染防止対策に新しい光」

▲（一社）次亜塩素酸水普及促進会議代表理事・越智文雄氏

次亜塩素酸水の空間噴霧がついに〝解禁〟となった。厚生労働省が今までの「おススメしない」という通達を変更した文書を、10月21日付で全国都道府県衛生主管局に発信したことによるものだ。日本除菌連合代表で、一般社団法人次亜塩素酸水普及促進会議代表理事を務める越智文雄あかりみらい社長ら関係者の1年半におよぶ粘り強い活動が実った。「これから迎える厳冬期に窓を開けての換気は不可能。北海道の感染対策に光が見えた」と越智氏は語る。

やめた自治体はいますぐ再開を！

左が、厚労省新型コロナウイルス感染症対策推進本部が10月21日付で都道府県・保健所設置市・特別区の衛生主管（部）局宛てに発信した事務連絡である。

「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」と題し、「空間噴霧をお薦めしないのは吸入により健康影響のおそれのある消毒薬や健康を害する類のものであり、次亜塩素酸水など個別の商品の選択についてはメーカーの取扱説明書や安全性の説明のもとに消費者が自己責任で使う」として、Q&Aにも「個々の製品の使用に当たり、その安全性情報や使用上の注意事項等を守って適切に使用することを妨げるものではありません」と記載している。

つまり「おススメしない」のは健康被害のおそれのあるもの、例えば消毒薬や劇薬成分を含む液体を噴霧するのはダメということで、次亜塩素酸水は「対象ではない」と明言したのである。

越智氏はこう語る。

「次亜塩素酸水に対する根拠のない風評が流され、この1年間にわたって本来、感染症対策に大きな効果を持つ資材・製品が封じられてきましたが、この通達をもって保健所も誤った指導を行わなくてよくなります。保健所の指導で超音波加湿器を止めてしまった自治体や施設はいますぐ倉庫から出して感染予防を再開していただきたい」

前向き、積極的にウイルスと〝闘う〟

さらに続ける。

「自治体は厚労省の通達がある限り、次亜塩素酸水の噴霧はできませんでした。『こんなものは毒ですからすぐ下げてください』という保健師さんもいたと聞き及んでいます。

次亜塩素酸水普及促進会議のもとには『次亜塩素酸水を使った空間噴霧を止めた後にクラスターが発生し、多数の死亡者が出た』、『保育所で次亜塩素酸水による空間噴霧をしていたが、保護者の要請で止めたばかりに園児が感染、家庭内感染へとつながり、お父さんが亡くなってしまった』といった声が寄せられています。この因果関係を証明するのは難しいのですが、全国のあちらこちらで相当悲劇的なことが起こりました。

営業休止や時短営業を余儀なくされたすすきのでは約8000店舗が倒産したそうです。アルバイトを含め8000人くらいが失業したのではないでしょうか。これはおそろしい統計ですが、自己破産者と失業者の100人に4人が自殺するそうです。こうしたことを未然に防ぐため、『命を落とすことは防げたはずなのに…』と後々後悔しないためにも、できることは今すぐにやっていただきたい。

いつまでも逃げ回るのではダメ。自宅に引きこもってはダメ。それでは元の生活が戻ってこない。前向き、積極的にウイルスと闘うのです」

危機管理のスペシャリ

事務連絡
令和3年10月21日

各 ｛都道府県／保健所設置市／特別区｝ 衛生主管（部）局 御中

厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部

新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について

新型コロナウイルスの消毒・除菌方法については、「独立行政法人製品評価技術基盤機構」（NITE）において有効性の評価が行われており、当該結果を含め、現在の知見を経済産業省、消費者庁とともにホームページにおいて周知しているところです。

近時、次亜塩素酸水を空間噴霧して使用することについて問合せが多く寄せられているところ、今般下記のとおりとりまとめた上、別添のとおりQ&Aとしてお示ししますので、内容について御了知の上、貴管内の関係機関に対して周知くださるようお願いいたします。

記

厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」の「5.（補論）空間噴霧について」[1]の【参考情報3】において、「消毒効果を有する濃度の次亜塩素酸水を吸い込むことは、推奨できません。」と記載しております。

これは、消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質を空間噴霧して使用することは、眼や皮膚への付着や吸入による健康影響のおそれがあることから推奨しない、という趣旨ですので、個々の製品の使用に当たっては、その安全性情報や使用上の注意事項等を守って適切に使用してください。

なお、同ホームページの「5.（補論）空間噴霧について」における「消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質」に該当する製品が、健康影響のおそれがあるものかどうかについては、各製品の安全性情報や使用上の注意事項等を確認いただき、消費者に御判断いただくものと考えております。

[1] 新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について（厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ）5.（補論）空間噴霧について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/syoudoku_00001.html

（別添）

【次亜塩素酸水の空間噴霧について】

問　厚生労働省・経済産業省・消費者庁特設ページ「新型コロナウイルスの消毒・除菌方法について」の「5.（補論）空間噴霧について」の【参考情報3】において、「消毒効果を有する濃度の次亜塩素酸水を吸い込むことは、推奨できません。」としているが、これは厚生労働省として、次亜塩素酸水を空間に噴霧する事をいかなる場合でも禁止するという趣旨か。

（答）
世界保健機関（WHO）は、新型コロナウイルスに対する消毒に関する見解の中で、「室内空間で日常的に物品等の表面に対する消毒剤の（空間）噴霧や燻蒸をすることは推奨されない」としており、このような国際的な知見に基づき、健康影響のおそれのある消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質について、人の眼や皮膚に付着したり、吸い込むおそれのある場所での空間噴霧をおすすめしない、という趣旨を示すものです。

なお、個々の製品の使用に当たり、その安全性情報や使用上の注意事項等を守って適切に使用することを妨げるものではありません。

ただし、「消毒剤や、その他ウイルスの量を減少させる物質」に該当する製品が、健康影響のおそれがあるものかどうかについては、各製品の安全性情報や使用上の注意事項等を確認いただき、消費者に御判断いただくものと考えております。

▲厚労省が都道府県や保健所設置市に通達した文書（赤線は重要な意味を示す記述で、厚労省が示したものではありません）

▲危機管理の専門家として「新型コロナ感染対策・防災フォーラム」で持論を述べた

ストとあって、発言には説得力がある。

ところで、厚労省が見解を変更した背景には、次亜塩素酸水普及促進会議、日本除菌連合が次亜塩素酸水の効果と安全性を再三にわたりアピールし、厚労省ほか関係省庁に事実に反する誤解を生む通達を変更するよう粘り強く申し入れてきたことがある。

次亜塩素酸水普及促進会議が設立されたのは昨年6月。アルコール不足で政府が代替資材の試験をした際に、政府から「次亜塩素酸水は新型コロナウイルスを不活性化する」と発表された一方で、一部メディアの誤報と一般消費者に誤解を与えかねない曖昧な通達が厚労省から出されたのがきっかけ。「次亜塩素酸水の空間噴霧は危険」であるかのような風評が広がったため、請われて代表理事に就任した越智氏を中心に、研究者やメーカーら全国150社（当時）がすぐに行動を起こしたのだ。実にスピーディーだった。

エビデンスに基づく効果・安全性を発信

越智氏は当時、こう述べていた。

「使命感ですね。適正な表示をしない、よくわからない商材を使う業者が現れ、厚労省や消費者庁が警戒を強めた。誤報から広がった風評による不信感の払拭のため団体をつくり、きちんとルールを決めようと、ということです」

次亜塩素酸水の始まりは、ハンガリーの医師ゼンメルワイツが産褥熱を抑えるため手洗いに塩素水を使用したこと。173年前だ。

古くから医療機関や福祉施設、牛舎等の畜産現場、ホテル、学校、食品工場などで広く使われている除菌、消臭剤である。次亜塩素酸は体外から侵入してきたばい菌を退治するために、血液中の白血球が作り出す抵抗物質で体内にも存在する物質だ。

加えて、感染予防の除菌方法で「空間噴霧が最も効果的」と言われるのは、これもまた除菌や消毒に20年以上も前から活用されてきたのが根拠となっている。国や大学、公的研究機関の試験結果など200を超えるエビデンスがある。

さらに海外では噴霧除菌が常識化している。イギリスやフランス、ドイツ、イタリアなどの欧州諸国では日常で行われており、中国や台湾は除菌液の大量噴霧で感染を封じ込めたと言う。

次亜塩素酸水普及促進会議は設立後、社会貢献も果たしてきた。その一例が、全国の会員各社が奥尻島に約11トンの除菌液と超音波霧化器・高圧噴霧器等180台を島に寄贈したこと。

周知の通り奥尻島は昨年11月～12月にかけ全島民の50人に1人にあたる53人の感染が確認された。越智氏の呼び掛けで会員各社が善意で資材を送ったことで、それ以降は一人も感染者を出していない。公共施設や商店、飲食店などで次亜塩素酸水を噴霧、除菌行動が徹底されたことで町中からウイルスが除去されたと考えられる。

次亜塩素酸水溶液普及促進会議はこれまで2回、全国規模の学会を開催した。成果と課題を会員が共有するほか、研究者やメーカー、ユーザーが一丸となり、いかにコロナウイルスと闘っていくか意見交換し、最新の研究・情報を全国に発信するためだ。

▲成人式会場を除菌する社会貢献も果たしてきた

一方、「日本除菌連合」は今年4月に設立。国会議員による「感染対策を資材と方法から考える超党派議員連盟」の設立を後押しするために結成され、その超党派議員連盟が今回の厚労省の通達変更に大きな役割を果たした。

10月22日、道新ホールで行われた「北海道新型コロナ感染対策・防災フォーラム」に片山さつき会長（参議・元内閣府特命担当大臣）はこう祝辞を寄せている。一部を紹介しよう。

「新型コロナウイルスの伝播様式については、かねてより空気中を漂うエアロゾルを介した感染リスクが高いと言われておきながら、次亜塩素酸水を使用しての空間噴霧について、一部消費者に誤認を与えかねない通達が厚労省から出されていたことは事実。しかし、この度、日本除菌連合のお力をいただきながら、超党派議員連盟から厚労省、経産省、消費者庁に働きかけ……」

と通達が変更されたことについて言及し、

「次亜塩素酸水に限らず、光触媒、オゾンなど今後、国が自ら検証し、安全性と有効性を明らかにすべき」

としている。

社会貢献ビジネス コロナバスターズ

かくして、次亜塩素酸水による除菌が今後、今まで以上に普及していくと思われる。

そうした中で、あかりみらいは9月に本格的にスタートした「コロナバスターズ事業」を加速度的に推進していく考えだ。

これは、あかりみらいが除菌全般をコンサルティングするサービスで、次亜塩素酸水溶液や最新の除菌資材を活用した、いわば社会貢献のビジネスである。

同社はこの1年半、さまざまな場面で「除菌」による社会貢献を重ねてきた。正月3ヶ日で約26万人が訪れた北海道神宮の拝殿や内殿ロビーの除菌を全面協力、5月のGWにはオホーツク管内興部町と後志管内倶知安町の成人式会場に出向いて会場を徹底除菌した。さらに、道内市町村に対して1自治体100台を上限に商品の高性能噴霧器を無償で貸し出してきた。

越智氏が力を込めてこう締めくくる。

「今まで飲食や旅行の自粛と移動の制限という消極的対策だけが感染対策でしたが、日本には世界最新技術の資材と製品がたくさんある。これからは積極的にウイルスと闘い、自分と家族を守る手だてを尽くしましょう」

▲テニスコート2面を除菌する「BREEZIA」

▶検温・外観除菌・手指除菌などを一度に行う「プロテクションタワー」

日本除菌連合・あかりみらいコロナバスターズアンバサダー

蝶野正洋氏コロナを〝ガッデム〟目の前の敵と全力で闘う

日本除菌連合アンバサダーであり、あかりみらいの事業であるコロナバスターズアンバサダーを務めるのが、プロレスラーの蝶野正洋氏だ。日本除菌連合代表の越智文雄あかりみらい社長は「前向きに、積極的にウイルスと闘う」を持論としており、蝶野氏はまさにそのイメージにピッタリ。10月22日、「北海道新型コロナ感染対策・防災フォーラム」のスペシャルゲストとして、また23日の「第2回次亜塩素酸水溶液学会」でそれぞれ講演した蝶野氏に、本誌が単独で話を聞いた。

▲「ウイルスと闘い元の生活を取り戻そう」と蝶野正洋氏

正しい情報が防災対策で最重要

プロレスラーとして第75代NWAヘビー級王座、IWGPヘビー級王者など輝かしい実績を残した蝶野氏は今なお絶対的な存在感を放ち、黒いカリスマとして、プロレス界に君臨し続けている。

リング以外にも活動の幅を広げ、AED救急救命や地域防災の啓蒙活動に力を入れるなどして、2014年設立のNWHスポーツ救命協会代表理事に就任。（公財）日本消防協会消防応援団、（公財）日本AED財団AED大使を務めるほか、千葉県警特殊詐欺加担防止広報大使の役割も担っている。

◇　◇

――日本除菌連合アンバサダーを務めています。除菌についての考えを聞かせてください。

積極的な対策でコロナと闘う。目の前に闘わなければならない敵がいるなら全力をあげて闘うべきです。日本除菌連合の「やれることはまだある」というキャッチフレーズに共感しており、除菌で感染を減らすように協力し、除菌がいかに大切であるかを全国に広めることに貢献できればと思っています。

次亜塩素酸水による除菌は、「誤った情報」によって、1年半にわたり正しいことができなかった。防災活動にも共通するのですが、「正しい情報を伝える・集める」のはとても重要なことです。

――蝶野さんは、あかりみらいのイメージキャラクターです。どのような縁だったのですか。

▲「北海道新型コロナ感染対策・防災フォーラム」ではスペシャルゲストとして講演

19年の大阪モーターショーでスペシャルサポーターを務めた際に、出展されていた越智社長と出会いました。防災・停電対策、車からの給電など、北海道の方々が3年前に経験したブラックアウトの教訓をしっかりと活かしておられる。防災と危機管理のスペシャリストとして啓蒙に取り組んでいる越智社長とお話しして、考えや目指すところがよく理解でき、「お手伝いします」と即答しました。

――蝶野さんの社会貢献活動は07年、エイズの予防啓発活動に協力したことに端を発しています。

活動の舞台裏に接して、すごく新鮮に感じたのですね。皆さん、ボランティアで取り組んでおられます。プロレスはある意味、全員がライバル。興行を例にとると、前後の試合内容を意識しますし、「良い試合をしてメインイベントを食ってやろう」とか、そんなことを考えているのです。

全国を移動しながら年間150～160試合をこなす中で、集客のことも考えなくてはなりません。その点、エイズの予防啓発活動は、一つの目的に向かって一体となっている。そこに感動を覚えました。

これをきっかけに、まもなくAEDの普及・啓発に携わりました。消防の方々からお声がかかるようになり、自分にできることはお手伝いさせていただいています。

興行で年2回来道熱い人が多い印象

――北海道をどう見ていますか。

1984年に新日本プロレスに入門し、その年に巡業で来道したと記憶しています。在籍した25年間、夏とさっぽろ雪まつりの時期の年2回、興行で来ていました。中島体育センターや月寒ドーム、きたえーるなどで試合をしましたが、中島体育センターの会場の熱気が印象に残っています。

自分たちが中心になる前のアントニオ猪木さんや藤波辰爾さんの世代のファンの人たちは特に熱かったですね。北海道には良い意味で〝熱い〟人が多いように思えます。

▲「第2回次亜塩素酸水溶液学会」でも講演

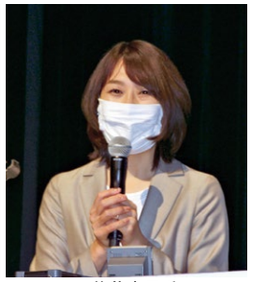
北海道新型コロナ感染対策防災フォーラム2021 次亜塩素酸水溶液学会

識者が力説した危機管理、除菌効果 etc

評論家小川榮太郎氏 説得力ある持論展開

「北海道新型コロナ感染対策・防災フォーラム」と「第2回次亜塩素酸水溶液学会」が10月22・23日にそれぞれ道新ホールで開催された。2日間にわたり、延べ14人の識者や専門研究者が講演などで危機管理のイロハや次亜塩素酸水による除菌効果などを力説した。

▲福﨑智司氏


▲菅井貴子氏

「北海道新型コロナ感染対策・防災フォーラム」は、防災士・気象予報士の菅井貴子氏、プロレスラーの蝶野正洋氏、福﨑智司三重大学大学院教授、越智文雄日本除菌連合代表、評論家の小川榮太郎氏が演壇に立った。

福﨑氏は次亜塩素酸水の作用について「水道水のような極低濃度で効果を発揮。空間噴霧も安全性は証明されている」と述べ、「手洗い、うがい、洗顔は家庭や学校、職場ですぐに適用できる。日本だからこそできる対処法」と語った。

この日のハイライトは安倍政権のブレーンだった小川氏の講演。

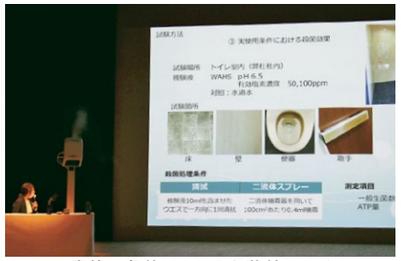
▲小川榮太郎氏

「間違だらけの新型コロナ論―専門家・マスコミの迷妄を正す―」と題して辛辣に持論を展開した。

「安倍政権時代、本業である文芸評論の仕事をほっぽり出し、ずっとコロナの対応をしてきた。そこでわかったのが、この国の医療とデータと政権がバラバラだという驚くべき実態」

冒頭からズバリ切り出した。緊急事態宣言を出すにあたって「医療機関を守ることを主題とすること」と政府に提起したエピソードを明かし、「先に出口を決めるべきと再三言い続けてきたが、地方自治体の首長や都道府県知事の緊急事態宣言を『やってくれ』という声に菅政権は飲み込まれた。政治的統治機能の崩壊現象がこの2年続いた」

▲元WHOエイズ世界対策本部課長の北大名誉教授・玉城英彦氏


▲実使用条件における殺菌効果などを述べた小野朋子氏

統計やエビデンスに基づいているため、講演内容に説得力があった。例に挙げたのが死因だ。

「日本の死因原因の1位はがん。去年は年間37万8356人が亡くなっている。それに対しコロナで亡くなったのは年間3459人。要するに100倍の医療資源をがん患者に充てないと命を粗末にしていることになる。コロナで大騒ぎしている時に他の病気で犠牲になった人がどれだけいることか。その時の空気で、コロナがいかにも悲惨なウイルスであるかに見せかけ、世論誘導に政府や政府系の専門家が便乗。これはイメージパニック。決して統計的、合理的なものではない。そういう状況に我々は巻き込まれていることを知らなければならない」

さらに、ステージ1～4の基準値が「まずかった」として「ステージ4の非合理性が日本のコロナ政策を根本から誤らせた」と語り、ワクチン接種は「欧米と同じ基準で普及させることが人道上、許されるのか」と提唱。

「情報リテラシーを高めて、その正しい判断を国民が共有していく努力をしていかないと、どこかで痛い目に遭う可能性がある」と締めくくった。

▲厚生労働委員会委員の川田龍平参議

参議の川田龍平氏 会員の行動を労う

第2回次亜塩素酸水溶液学会では、福﨑氏や蝶野氏の講演に加え、エイチ・エス・ピー研究開発部部長の小野朋子氏が「どう使う?次亜塩素酸水溶液の現実的な使用方法と効果」について述べ、玉城英彦北大名誉教授が「ヒトに対する次亜塩素酸水エアロゾル吸入による安全性確認試験」をテーマに講演。いわゆる人体実験の末に「特に問題は確認できなかった」と学術的な裏付けを語った。

次亜塩素酸水溶液普及促進会議・本庄正人理事からは厳正なJFK品質認証シールについて説明があった。

最後に超党派議員連盟のメンバーでもある参議院議員・川田龍平氏が次亜塩素酸水の空間噴霧について厚労省が見解を変更したことに「国会議員は動くことに躊躇することもある。皆さんの力が大きい」と次亜塩素酸水溶液学会の会員の行動を労った。

学会の模様はwebで全国配信された。

動画の記録は次亜塩素酸水溶液普及促進会議HPに。